

禁煙推進委員会だより

松岡整形外科 松岡 彰（禁煙推進委員長）

平成 24 年 4 月に、山口県医師会に禁煙推進委員会が設置されました。その際、理由はわかりませんが整形外科医である私が委員長に推薦されました。内科や呼吸器科の先生が適任と考え、固辞しましたが、どうしてもということで、引き受けることになりました。

私は昭和 50 年、山口大学医学部を卒業し整形外科の道を歩み始めました。当時は、成人喫煙率は約 80% で多くの医師も喫煙していました。私も 18 歳でタバコを覚え、医師になってからも吸っていました。当時の卒業アルバムには、教室で喫煙する姿が数人写っています。

禁煙したきっかけは、昭和 58 年の中国旅行でした。現地で風邪をひき、買って行った免税の安いタバコを中国人に差し上げ禁煙を決意しました。自分がやめてみると、逆にタバコの煙に対する過敏症が出て我慢できない状態になりました。当時の山口大学病院の外来には各科の待合室に灰皿が置いてありました。小児喘息の患者のそばで皮膚科の患者が喫煙しているのです。当時外来医長をしていましたので早速調査し、病院運営会議に提出し外来の灰皿を撤去させることが出来ました。院内の各種会議も禁煙になっていきました。

平成 3 年に山口労災病院に赴任しました。運営会議で、ある医師が喫煙をしていたので強く抗議し次回の会議から禁煙になりました。事務室も禁煙にし、院内のたばこ自動販売機も撤去しました。

平成 14 年に山陽小野田市内で整形外科医院を開業しました。整形外科でも喫煙の害はあります。骨粗しょう症のリスク因子ですし、骨折治癒の遅延、椎間板ヘルニアの増加、手術合併症の増加などです。

徐々に通院の患者さんに禁煙を勧めるようになり、平成 18 年より保険診療で禁煙治療を開始しました。現在まで 200 人以上に禁煙治療を行ってきました。初めは貼付剤のみでしたが、現在は飲み薬も使用でき、70% 近い成功率です。

禁煙推進委員会の活動が始まって 2 年が経ちました。まだ大きな成果が上がったとは思えませ

んが、禁煙推進のための基盤が徐々にできてきました。昨年は県医師会員へのアンケート調査も行いました。また山口県医師会禁煙宣言の草案も作成しました。毎年、5 月 31 日の世界禁煙デーを中心とした活動とともに、各医師会での健康祭りなどでの啓発活動も徐々に広がっています。

山口県の禁煙に関する今後の課題ですが、1) 禁煙治療施設の増加、2) 禁煙に関する研究会の開催、3) 青少年に対する禁煙教育、4) 受動喫煙防止対策、5) 禁煙推進の市民運動の創設、などです。

現在、山口県の禁煙治療施設は 176 施設で、全医療機関 1,233 機関のうち 14.3% にすぎません。多数の診療科のある総合病院でも禁煙外来を行っていないところが少なくありません。今後の拡充を推進したいと思います。

禁煙治療研究会については各地で散発的に行ってきましたが、正式な研究会が必要と思います。

禁煙教育については、学校医の役割が大きいものの実際にはほとんど行われていません。宇部市では山口大学医学部地域医療推進学講座による禁煙教育が全小中学校で行われており、今後全県で取り組むべき課題です。

受動喫煙防止は最も遅れている分野で、レストランや居酒屋・バーなどはほとんど野放しで対策が必要です。産業医の役割も大切です。行政や議会の理解も得なければ有効な対策はできません。

京都や熊本では禁煙フォーラムといった種々の職種の人々の集合体があり、禁煙を様々な形で推進しています。山口県にもこのような市民の団体の出現が望まれます。

アメリカの 28 州・地域の司法長官がタバコ販売の中止を要請しました。人の命を奪う有害な商品を販売しないように要請したもので、企業倫理から有害物質は扱うべきではありません。

これからは山口県民の生命を守るために、全医師会員の英知と行動を結集して全県的な禁煙推進を行う決意ですので、ご指導のほど宜しくお願いいたします。